

第1章 野田市の現況と特性

この章では、野田市の位置的な条件や現在に至るまでの発展の経緯とともに、土地利用、交通体系、産業などの現況や特性を整理しています。

1-1 まちづくりの経緯

1-2 現況と特性

第1章 野田市の現況と特性

1-1 まちづくりの経緯

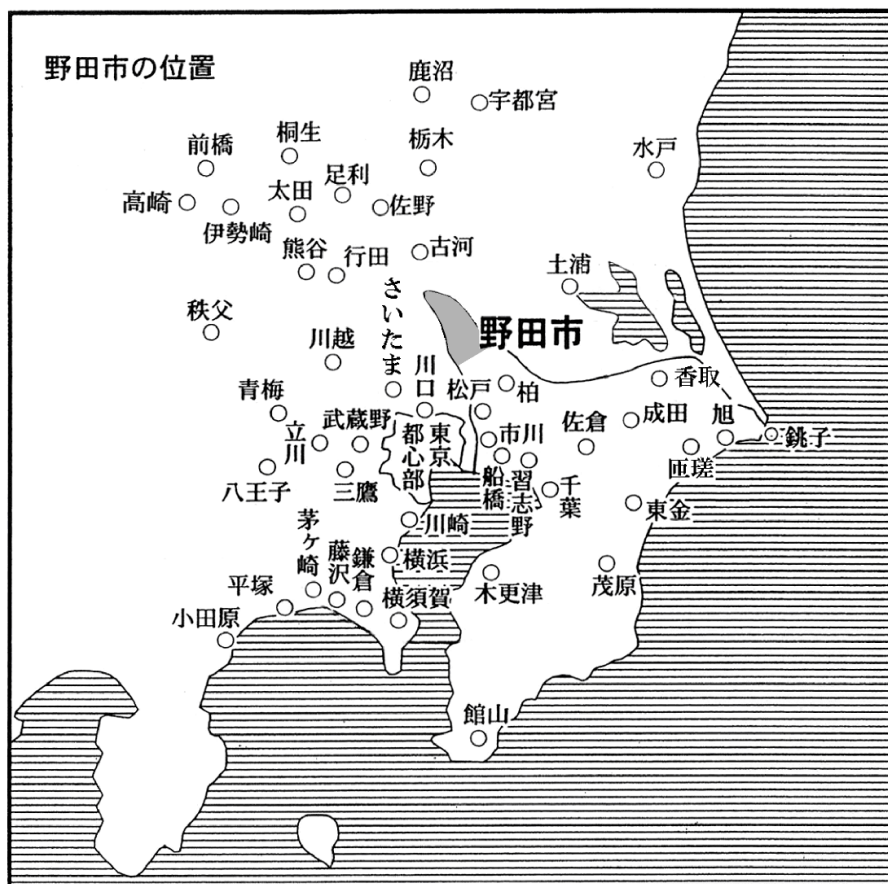
1) 立地条件

本市は、千葉県北西部に位置し、東京都心から約30km、県庁所在地千葉市から約45kmの距離にあり、市域面積は103.55km²、南北間約21km、東西間約16kmとなっています。

地形的には、市の最北端で利根川、江戸川が分流し、東を利根川、西を江戸川、南を利根運河によって、三方を河川に囲まれております。

また、北は五霞町・境町（茨城県）、幸手市（埼玉県）、南は流山市・柏市、東は坂東市・常総市・守谷市（茨城県）、西は杉戸町・春日部市・松伏町・吉川市（埼玉県）にそれぞれ隣接しています。

平成15年（2003年）6月6日に、旧野田市と旧関宿町が合併し、新しい野田市が誕生しました。



2) 発展の経緯

本市は、水とみどり豊かな自然環境の中で、市域南側の旧野田市は利根川、江戸川の水運をいかして江戸時代から醤油醸造の地として発展し、産業、文化の面においても周辺地域の中心地として繁栄してきました。しかし、近代以降の鉄道・自動車の発達とともに交通体系は大きく変貌し、東京に比較的近距离に位置しながら、周囲を河川に囲まれた地理的条件に阻まれ、都心部に直結した鉄道や道路がなく、首都近郊都市でありながら都市化の進展が緩やかで、落ち着いた街並みを形成してきました。

市域北側の旧関宿町は、戦国時代から「関宿を手に入れることは、一国を取ることに替えがたい」ともいわれ、江戸時代の関宿藩には幕府の川関所が置かれるなどにぎわいを見せましたが、時代の推移により水運の要所としての役割を終えました。同町は、近代将棋の父と称される十三世名人関根金次郎や、戦後の日本将棋連盟を再興した渡辺東一など、将棋界を担った棋士を輩出しました。また、内閣総理大臣を務め、終戦に導いた鈴木貫太郎が居を移すと、同氏が奨励した酪農が全盛となり、豊かな自然とともに農業・畜産業を中心とした第一次産業を基に発展してきました。

近年、東武鉄道野田線の連続立体交差事業による高架運行、都市計画道路の整備や駅周辺のまちづくりやコミュニティバス（まめバス）の運行など、都市基盤の整備を図るとともに、コウノトリをシンボルとした自然、生物多様性の保全、再生、利活用や減農薬及び減化学肥料の取組を全市域で推進し、黒酢米などの農産物のブランド価値を高める取組を行ってきました。

今後のまちづくりにおいては、これまでの発展の方向性を継承しつつ、様々な分野において更なる発展を遂げるようなまちづくりを推進することが求められます。

1-2 現況と特性

1) 人口

野田市の人口は、平成27年（2015年）時点で約15万4千人（常住人口（*4）ベース）であり、平成28年度からスタートした総合計画においては、令和12年（2030年）における将来人口は約15万2千人と想定されています。

2) 土地利用

野田市の土地利用は、野田地域と関宿地域に大別されています。

野田地域は、国道16号以西は主に市街地、以東は農地、ゴルフ場を中心とした土地利用がなされています。

市街地は、その土地利用上の特性から北部、中央及び南部の3地区に区分することができ、北部地区と南部地区は、土地区画整理事業（*5）などにより、計画的に開発・整備された住宅地が広がっています。中央地区は、古くからの醤油工場の集積を中心に工業地、商業地及び住宅地が形成されており、経済、文化、商業及び生活の中心的な地区となっています。

また、国道16号以東に関しては川間、東部及び福田の3地区に区分することができ、台地部分は主に、畑地及びゴルフ場として利用されており、低地部分は水田として利用されています。

関宿地域については、関宿北部、関宿中部及び関宿南部の3地区に区分することができ、関宿北部地区は、城跡や史跡等の歴史的遺産による文化的な潤いのある市街地が形成されており、関宿中部地区は、基盤整備が遅れているものの、土地区画整理事業による計画的な市街化が図られ、さらに、関宿はやま工業団地が整備され流通施設等が集積しています。関宿南部地区は、優良な農地と共存する形で集落が形成されています。

(1) 住宅系土地利用

住宅系土地利用としては、北部地区に川間駅南側を中心としたみどり豊かなたたずまいの住宅地が形成されているほか、南部地区におけるみずき一丁目から四丁目などは、景観に配慮した良好な住宅地が形成されています。

また、中央地区においては、古くから市街地が形成されており、密集した市街地の中で、中高層の建築物が点在しています。さらに、江戸川や座生川沿いには、景観に配慮した良好な住宅地が形成されています。

関宿北部地区及び関宿中部地区においては、土地区画整理事業などにより良好な住宅地が形成されつつあります。

ただし、土地区画整理事業によって住宅等の建築が進み、一団のまとま

った住宅予定地が減少しています。

また、空家の9割程度が市街化区域内に分布している状況がある一方、駅から比較的近い圏域においては、空地・空家が発生しても、早い段階で建替えや分譲による建築行為が行われています。

(2) 商業系土地利用

野田市内の商業は、郊外型大型店等の集客力が高い一方で、商業者の高齢化や担い手不足が進む商店街では空き店舗の増加等、衰退傾向にあるところが多くなっています。今後、ますます高齢化が進む中で、商店街は、高齢者の買物の場の確保に加えて、地域コミュニティの核としての機能もあることから、地域の身近な商店街の活性化が重要です。そのために、空き店舗の活用や付加価値の高い品揃え等、商店街の魅力創出を図ります。

商業地は、東武野田線の野田市駅・愛宕駅周辺や中野台地区及びその周辺、川間駅周辺地区、梅郷駅周辺地区及び土地区画整理事業で整備された地区などに形成されています。その他、幹線道路（*6）沿いに郊外型店舗が立地しており、多様な商業施設による沿道景観が形成されています。

また、関宿地域では、主要地方道沿道に商業の集積が若干見られますが、独自の商圈の形成には至っていません。

(3) 工業系土地利用

野田市駅周辺などの市の中心部では、野田市の産業活動に大きな役割を果たしている醤油醸造業が営まれています。国道16号沿いには中里工業団地、南部工業団地、野田工業団地及び泉地区の工業団地が立地しており、関宿地域においては、主要地方道結城野田線沿いに関宿はやま工業団地、それに隣接して関宿工業団地が立地しています。

その他、七光台地区の北部工業団地は、七光台駅に近接していることから、工場と住宅との混在による土地利用上の問題が見られます。このような住工混在の土地利用を解消するために、既存工業地への工場移転を促進します。

なお、幹線道路沿いには、地区計画を活用した流通業務施設の立地が進んでいます。

3) 交通体系

公共交通については、都心に直結する鉄道がなく、東武野田線が単線であることから、通勤、通学などにおける交通の利便性の向上が求められています。今後は、公共交通の利便性を高めるため、東京直結鉄道（地下鉄8号線）（*7）の整備、東武野田線連続立体交差事業（*8）及びそれを契機とした複線化を促進します。

道路網については、広域的な道路として東西方向に主要地方道つくば野

田線、越谷野田線、境杉戸線及び一般県道岩井関宿野田線、南北方向には、国道16号、主要地方道結城野田線、松戸野田線、我孫子関宿線及び市道山崎野田線が機能し、市街地の主要な交通動線としての役割を果たしています。しかし、河川に囲まれている地形上の特性から、幹線道路の橋付近では、日常的な渋滞が発生しているため、4車線化を含めた幹線道路の整備を促進します。

なお、市街地内においても東武野田線の踏切による渋滞が見られましたが、連続立体交差事業による鉄道の高架化により、渋滞緩和が図られています。

地域公共交通網については、路線バス、タクシー、コミュニティバスが運行していますが、高齢化や地理的条件等によりこれらの交通が運行しない交通不便地域が点在しています。買物等の市内拠点への移動など日常生活における利便性の向上施策が必要となるため、各交通機関の輸送力や移動距離等の特性に応じて、地域の実情に合った地域公共交通環境の整備を促進します。

4) 産業

(1) 商業

近年、郊外型・沿道型の大型店の立地が進み、市街地内の商業地においては、店舗の老朽化や後継者問題、駐車場不足、交通アクセス問題、空き店舗の増加、立地動向は低水準となるなど、商業を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあります。

(2) 工業

野田市の工業は、市の中心部に長い歴史と伝統を有する醤油醸造業や関連産業により発展し、現在も野田市駅周辺などにおいて、多くの工場が稼働している状況です。

また、国道16号が市の中心を通り、交通の利便性が高いことから、金属・機械を中心とした6か所の工業団地が立地し、市の活力を支えています。

(3) 農業

農地は、その大部分が関宿地域の河川沿いと野田地域の国道16号の東側や南部地区の今上周辺に分布しており、台地部分では、ほうれん草や枝豆、キャベツなどの野菜類の作付けが行われ、低地部では、水稻を中心とした作付けにより農業が営まれています。しかし、近年の高齢化に伴う後継者不足などにより、耕作放棄地が拡大しつつあり、今後の農業の展開が懸念されています。

江川地区においては、自然との調和に配慮した農業経営を行う農業生産

法人が設立され、用水路のしゅんせつ（*9）や水田の草刈りなどの復田作業が行われ、自然環境保護対策基本計画（*10）に基づいた自然と共生する地域づくりが推進されています。

5) 自然・歴史・文化

野田市を取り囲む大きな自然環境の要素として、利根川、江戸川及び利根運河の三つの河川や、中央の杜、野田市総合公園、野田市関宿総合公園、野田市スポーツ公園などの公園・緑地と合わせて、豊かな自然とのふれあいの場となっています。

また、河川周辺の低地部においては、優良な農地が広がっており、屋敷林に囲まれた農家などと一体となった良好な田園風景を見ることが出来ます。その他、国道16号沿いに広がる平地林や、市街地の内部や周辺部に残された谷地群及び斜面林は生物多様性の宝庫であり、野田市の特徴的な自然資源として挙げられます。また、多くの神社・仏閣の中の樹林等は本区域を特徴付けるみどりとしてとらえることができます。

野田市の歴史としては、古くから醤油醸造の地として発展してきた中心市街地から野田市駅にかけての醤油蔵やそれを取り囲む板塀、レンガ塀のほか、醤油醸造の中核を担ってきた醸造家の住宅や興風会館を始めとする登録文化財や近代産業化遺産など、大正期から昭和初期をしのばせる建造物が多数存在しています。

また、代表的な社寺として、野田上町の県指定有形文化財である愛宕神社（本殿）は、野田三か町一帯の総鎮守として位置付けられて、隣接する西光院とともに市街地内においてみどりが少なくなりつつある中で、潤いある空間を形成しています。

本市にあった城跡としては、室町時代に築かれたとされている関宿城があり、江戸時代には関宿藩が設置されていました。関宿城跡近くには、「河川とそれにかかわる産業」をテーマとした県立関宿城博物館があり、シンボリックな天守閣は平成7年に再現されたものです。また、主な著名人としては、近代将棋の父と称される十三世名人関根金次郎や、戦後の日本将棋連盟を再興した渡辺東一など、将棋界を担った棋士を輩出しました。さらに、内閣総理大臣を務め、終戦に導いた鈴木貫太郎翁の遺品の多くを展示した鈴木貫太郎記念館が有名です。

野田市では、野田三か町夏祭りの「野田のつく舞」、清水八幡神社の「ばっばか獅子舞」、下根香取神社の「下根獅子舞・棒剣術」、木間ヶ瀬大杉神社の「武者土囃子」など、伝統の技が冴える民俗芸能が貴重な財産となっています。また、「清水公園のさくらまつり・つつじまつり」、「関宿城さくらまつり」、「野田みこしパレード」、「野田夏まつり躍り七夕」、「関宿まつり」、「野田市産業祭」などの各種イベントも多く開催されています。

6) SDGs (*11) の取組

持続可能な開発目標(SDGs)とは、平成 27 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された国際目標です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものとなっています。

本市のこれからの都市づくりは、このSDGs が掲げる開発目標への貢献も念頭に取り組むことが求められます。



